

第2回 気高地域学校統合に関する関係者会議

令和4年12月13日(火) 14時～
気高町総合支所

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報告

・第1回関係者会議議事概要について……資料1

4 協議

(1) 新設校設置位置の特徴・課題等について……資料2

(2) その他

5 今後の動きについて

6 閉 会

第1回 気高地域学校統合に関する関係者会議の概要について

教育総務課校区審議室

1 日 時 令和4年11月29日（火） 15時 ～ 16時30分

2 会 場 気高町総合支所

3 出席者 【委員】19名 欠席1名
【気高町総合支所】職員5名
【教育委員会事務局（教育総務課校区審議室）】職員3名

4 説 明 (1) 関係者会議の協議内容について
(2) 新設校の設置位置について

5 質疑応答（概要）

(1) 関係者会議の目的について（意見）

○要望書の内容が尊重されていないと思う。どうして現浜村小学校の案（案②）が検討課題にできたのか。

⇒（事務局回答）：浜村小学校の位置が案として挙がっていることについて、統合検討委員会でも検討したが、要望としては駅に近いという条件があったので、案①（駅南側）の新規用地と、案②（浜村小学校）と対比していただくため、最後まで残った案②を挙げている。

○地域住民がしっかりと話をし、候補地を絞って出した要望に対して、もう一回元に戻ってどちらかという出し方をされるということであれば疑問が残る。

⇒（事務局回答）：公共施設整備にあたっては原則、新しい用地を取得しないという方針がある。なぜ新しい候補地なのか、その理由付けが必要と考えている。要望書をいただいているが、詳しい理由は書かれていないので、新しい土地でのまちづくりについて具体的に考えていただき、その必要性について提案いただきたい。

○今までの話し合いの上に、理由付けをして、ここが適切な土地であるという肉付けをする会だと思えばいいですね。

⇒（事務局回答）：新しい土地に学校を建てるということであれば、それがまちづくりの観点で、なぜ必要なのかというご意見をいただきたい。

(2) 委員からの質問（勝見川放水路計画について）

○気高町史には、昭和30年代の勝見川の浸水のことが載っていた。統合準備委員会では、浸水のことについてはあまりでてこなかったのが、浸水について心配している。

○県の事業の勝見川の放水路計画についてはより詳しくお聞かせいただきたい。

⇒（事務局回答）：資料に県の事業である勝見川放水路計画を載せている。勝見川にバイパスである放水路を設置することによって、格段にそのリスクは軽減されると思われる。

(3) 今後の関係者会議の進め方について

○各委員が考えたり話し合ったりするため市の方で持っているメリット、デメリット等についてもう少し詳しい資料がいただきたい。

⇒(事務局回答)：ハザードマップ等、統合準備委員会の資料等話し合いのための資料も提供させていただきます。

○保護者からは新しい学校を作る際には、通学方法や校区問題をセットにして議論をしていただかないと判断できないという声を聞いている。保護者の観点も踏まえて、まちづくりを考えていくことも必要だと思う。

○どんな学校にするのか、通学方法はどのようにするのかなど決めないといけないことはまだ、たくさんあるけれども、まだ、位置も決まっていない。前にどんどん進んでいかないといけないと思う。保護者も待っている。

○地域に開かれたモデル的な学校を気高地域に作っていくということを示していただければ話が進んでいくと思う。スピード感をもって魅力ある学校づくりを進めていただきたい。

○まちづくりの観点でも統合準備委員会が示している場所が、最適地だということをまちづくりの観点からも根拠を示し後押ししていけば、その内容に沿って市教委も方針をまとめられると思っている。

5 その他

《第2回予定》

日 程：12月13日(火) 14:00～ 場 所：気高町総合支所

新設校設置位置の特徴・課題等について

- 教育総務課校区審議室
- 気高町総合支所

目次

- P3 統合準備委員会でまとめられた特徴・課題の内容
- P6 庁内検討会議でまとめたメリット・デメリット
- P7 鳥取市総合防災マップ
- P8 「鳥取方式」洪水浸水リスク図
- P9 勝見川放水路計画に関する事業計画
- P10 通学に関する検討事項

統合準備委員会でまとめられた特徴・課題の内容

気高地域学校統合準備委員会だより（令和3年8月作成）から抜粋

学校用地について

学校用地の選択については、以下のことを前提とし検討を進められました。

【令和3年8月特別号】
気高地域学校統合準備委員会だより

【令和3年8月 特別号】

地域とともに学校を創る

～気高地域学校統合準備委員会だより～

学校種と学校用地の決定に向けた議論の状況を報告します

◆学校種について

現在、定本、隣郷、浜村、蓮坂の4小学校の統合と、中学校も改めた9年制の新しい校種「義務教育学校」とするのを議論しています。

義務教育学校とは・・・

小・中・高の教員が異年齢・異学年の生徒を担任し、小・中・高の連続した教育をするために平成28年に法制化された新しいタイプの学校。1人の校長、1つの職員組織で運営されます。

現在、気高市にも鹿野、網野、福原、江田地域に地域の要望を受け4校が開設、様々な面で教育の充実が期待できるため、全国的にも増加しています。（6頁目）

◆学校用地について

学校用地の選択については、以下のことを前提とする必要があります。

1. 土砂災害、浸水、津波等の心配がなく児童の登下校時も含めて安全な場所であること。
2. 大多数の児童が徒歩で安全に通学できる場所であること、また遠方の児童については、公共交通機関やスクールバス等を用いて概ね1時間以内で通学できること。
3. 平常の授業中はもちろん、通学時や下校時に町民等の目に触れやすく、地域に開かれた学校づくりが行われやすい学校づくりが行われやすい場所であること。

併せて、各校区の方数数

令和3年5月現在	合計	定本小	隣郷小	浜村小	蓮坂小
	367人	65人	50人	221人	31人

上記の前提をもとに、現在以下の3つの候補地を挙げて議論を進めています。

○ 現在の浜村小学校の敷地あるいは、隣接する町民グラウンド周辺を整備し学校用地とする。

○ 現在の気高中学校に隣接する場所を整備し、校舎を建築する。

○ 上記、1、2の条件を満たす場所を新たに取得する。

候補地	中学校に隣接	隣接する敷地
候補地1	○	○
候補地2	○	○
候補地3	○	○

これらを整えて頂く統合準備委員会では、それぞれのメリット・デメリットを整理しながら議論を進めています。ぜひ、この内容について皆さんのご意見を積極的にください。

01 土砂災害、浸水、津波等の心配がなく児童の登下校時も含めて安全な場所であること。

02 大多数の児童が徒歩で安全に通学できる場所であること、また遠方の児童については、公共交通機関やスクールバス等を用いて概ね1時間以内で通学できること。

03 平常の授業中はもとより、通学時や下校時に町民等の目に触れやすく、地域に開かれた学校づくりが行われやすい場所であること。

学校の完成までにかかわること（ハード）

	【案1】浜村駅周辺（南側）	【案2】現浜村小学校
用地の取得等	新たに用地を取得する際、場所、規模、時期等、不確定な面があります。	隣接市有地の活用も踏まえ、地域との協議が必要となります。
着工までの期間	用地の取得場所によっては、学校用地にするための各種規制を解除したのち、設計・造成をする必要があり、ある程度の期間が必要です。	増築部分のみの設計となれば早期に着工、新築となっても造成の必要がないため比較的早期に着工されます。
工事期間の長さ	造成等が必要となります。	造成の必要はありませんが、既存施設の劣化具合の診断が必要となります。
整備コスト	用地取得・造成が必要となります。通学路の整備も必要となります。	体育館等は既存施設を活用できます。進入路等の整備は必要となります。

学校統合後の子どもの暮らしに関わること（ソフト）

	【案1】浜村駅周辺（南側）	【案2】現浜村小学校
児童生徒の 安心・安全面	建設場所、通学路等、安心・安全を最優先に選定することが可能です。	現状では特に問題はありません。
通学	多くの児童が徒歩で通学可能な場所を選定する必要があります。	多くの児童が徒歩で通学可能となります。
将来的な見通し	用地取得の際、将来のまちづくりの視点を踏まえた場所選定が必要です。	隣接市有地の活用により、十分な敷地面積が得られ、学校種の変更にも対応できます。
開かれた 学校づくり	公共施設の複合化等を検討すれば、地域活動の拠点となる学校づくりが可能となります。	浜村地区との関わりに偏らないよう配慮が必要です。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・保・小・中が全て別々の位置となる ・場所によっては、踏切や道路の整備を検討する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化改修であればプレハブ利用 ・保育園隣接

庁内検討会議でまとめたメリット・デメリット

庁内検討会では、気高地域学校統合準備委員会での検討内容を考慮し、複数の候補地のうち「案1：浜村駅周辺（南側）」について検討を行った結果を掲載します。

	メリット	デメリット
防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時に支所との連携が取りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県策定の「鳥取方式」洪水浸水リスク図により想定される浸水区域に近接。 ・ 一部学校までの道が狭い。
複合化・ 周辺施設活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣公共施設の活用が可能（コミセン、ゆうゆう健康館、地区公民館、支所） ・ 周辺既存施設のプールの利用を検討可能（施設の有効活用、職員の負担軽減） ・ 町内の公共交通網の要（JR浜村駅）に近く、JRの利用等、通学の利便性に優れている。 ・ 施設配置の自由度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取得する土地面積によって複合化する機能に影響する。 ・ 既存施設のプールの利用の際にはバス等での移動が必要。 ・ 保、小、中が全て別々の位置となる。
事業等の期間	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開校までの期間が不確定（土地取得、造成、周辺環境整備等） ・ 県事業（勝見川放水路計画）とのスケジュール等の調整が必要。

鳥取市総合防災マップ（鳥取市危機管理課HPより）

本市が洪水、土砂災害、津波の危険地域などの情報を住民の皆様に分かりやすく提供することで、防災意識の向上や災害時に向けての事前の備えを心がけていただくことを目的に作成。

【浜村駅周辺の防災マップ（抜粋）】



→ 案1、案2ともに洪水や土砂災害の発生が考えられる地域から離れています。

「鳥取方式」洪水浸水リスク図（鳥取県県土整備部河川課HPより）

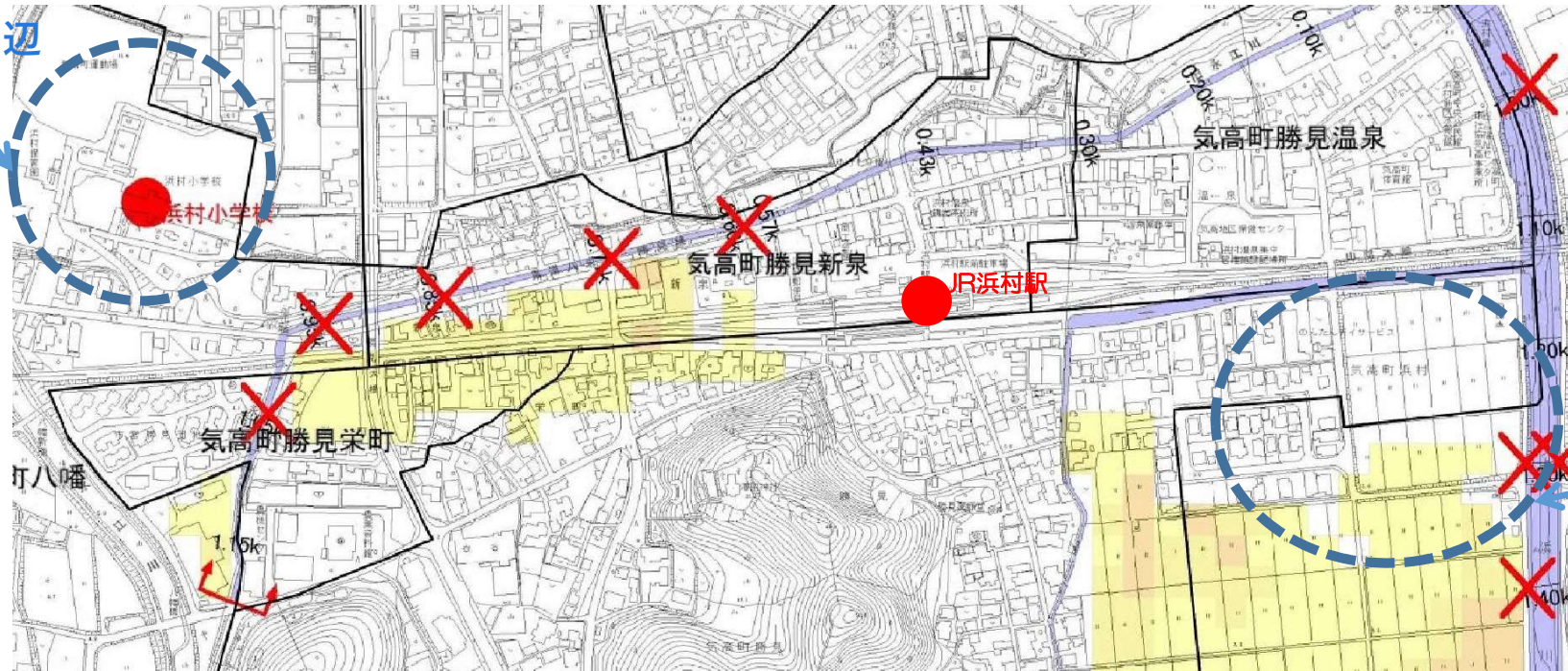
鳥取県が適切な避難行動への一助とすることを目的として、県独自の簡易手法（「鳥取方式」）により、洪水のリスクを評価し、洪水浸水リスク図として情報提供を行っているもの。

＜当図の基本事項＞

- ◎作成主体・・・鳥取県
- ◎作成年月日・・・平成30年9月7日
- ◎対象区間・・・浜村川：浜村川河口～千学橋
旧永江川：浜村川合流点～永江川付近
- ◎対象降雨・・・時間雨量65.3mm相当
(双六原雨量観測所50年確率)
- ◎関係市町村・・・鳥取市

【浜村川水系の浸水洪水リスク図（抜粋）】

【案2】周辺



凡例

- ～ 0.3m未満
- 0.3m～ 0.5m未満
- 0.5m～ 1.0m未満
- 1.0m～ 3.0m未満
- × 流下能力不足箇所
- 検討区間

【案1】周辺

※水位周知河川等以外の県管理河川を対象にリスクを評価

勝見川放水路計画に関する事業計画 ~鳥取県河川改修事業の説明内容について~

【広域図】



【案1】周辺



浜村駅方面

県が新規用地に向かう途中の市道に橋梁を設置予定

河道拡幅に伴い分断される赤線を現幅員で復旧（人道橋を想定）

河道拡幅に伴い橋梁を現幅員（橋長は長くなる）で復旧

※鳥取県計画調査課作成資料

通学に関する検討事項

通学距離及び時間に関すること

通学距離・時間について、安全面の確保に配慮することはもちろん、通学時間については、公共交通機関の利用、スクールバス等の導入により適切な交通手段が確保できることを前提します。

鳥取市の基準	
小学校	小学校4km以内をおおよその目安としつつ、交通手段を確保するなどして、おおむね「1時間以内」

バス通学等への対応

(1) バスダイヤ等の改正協議について

バス通学については、新設校の生活時程等を勘案しながら、日ノ丸バス、気高循環バスのダイヤ改正等について、要望・協議する必要があります。

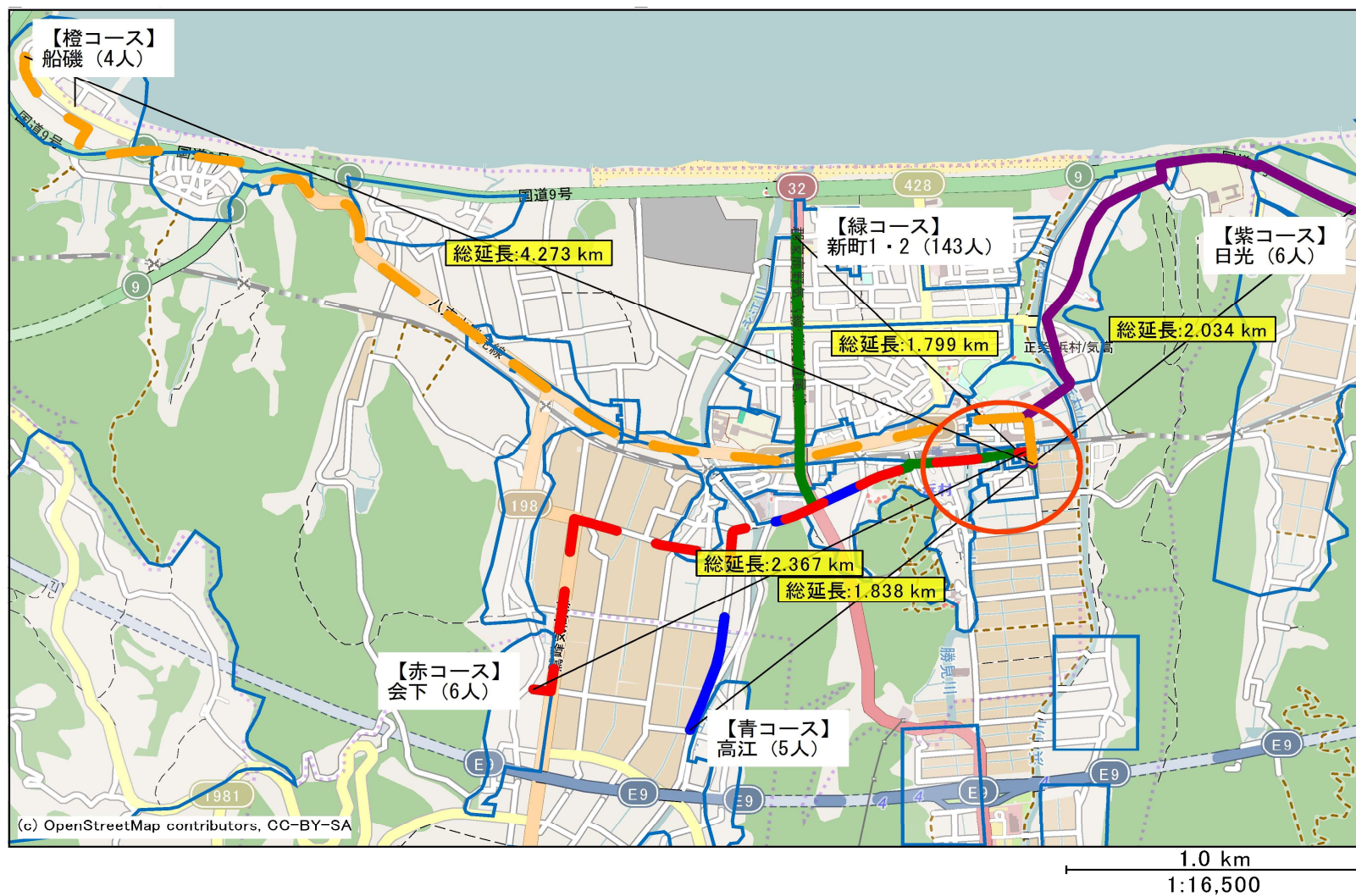
(2) 小・中学校遠距離等通学費補助制度について

鳥取市では、市立小・中学校に通学する児童・生徒において、居住地域から学校まで遠距離（小学生3km以上、中学生5km以上）にあり、バス若しくはJR又は公共交通手段がないため自家用車により通学する場合、その通学に係る経費負担を軽減するため、補助事業を実施しています。

→ (1)・(2) に関する具体的な検討は、今後設置する予定の「(後期) 気高地域学校統合準備委員会」において検討が行う予定です。

【案1】 浜村駅周辺（南側）への通学距離の目安

(令和3年5月1日現在の児童数)



各委員からのご意見の内容

防災・減災について

- 駅南に新設の場合、支所等防災拠点と近くなり、**災害時の連携・確認がとりやすくなる**と考える。
(災害時通信網の確保は困難な可能性が高いため)
- 道路整備を行うことで、災害時の児童の引き渡しの際、住宅の密集していない駅南は危険及び混雑等が減ることが考えられ、**保護者と住民間のトラブル減につながる**。
- 現在の浜村小学校の位置では、**道幅も狭く、不便さを感じる**事がある。統合したことで交通量も増えれば、さらに課題が増えると予想される。
- 新設統合小学校は**盛土で地上げをして校舎を高くし**、周りから見えやすいようにそびえたたせてほしい。
(防災の観点からも重要)
- 新しいニーズに対応した施設の設計や**防災、減災機能の備わった安心安全な学校**ができる

まちづくり・複合化・周辺施設活用①

- 利用頻度の低い施設、不要な施設の複合化・共用は賛同するが、子供たちの勉学に我慢・妥協を要する形になることは容認できない。
- 鳥取市都市計画マスタープラン、鳥取市新市域振興ビジョン等書かれている様に個性を活かしたまちづくりをして頂きたい。
- 旧気高町民体育館が使用中止、中央公民館、社会福祉協議会なども老朽化が進んでいるので、放課後児童クラブ、浜村図書館、気高町の宝である温泉など含めた**学校作りの供用化、複合化の検討**をして頂きたいと思う。
- プールについては**低学年はゆうゆう健康館、高学年は気高町B&G海洋センター**を利用し、新たに作らなくていいと思う。
- 鳥取西道路が開通し、道の駅西いなば気楽里ができたことなど、駅南側が賑やかになってきそう。それにともない、**駅南を中心に気高地域の核となる機能**が将来に必要なだと考える。
- 現在取り組んでいる「小さな拠点」の構図を理想として目指すため、**地域住民が集まりやすく、利便性が高い場所**であることなどが大事なポイントになってくる。

まちづくり・複合化・周辺施設活用②

●この地域に「小学校(カルチャーゾーン)」、「コミセン・地区公民館・旧気高町民体育館(コミュニティーゾーン)」、「商業ゾーン」、「住宅ゾーン」を設けることにより、人の流れの増加、新規転入者の増加が見込まれ、将来、**気高町の中心市街地として発展**することが見込まれる。

このことから、これからの気高町の発展のためにも学校・公共施設を含めて新しい「まちづくり」の拠点としたい。

●現在試行中の乗合タクシーも**将来の交通体系を考える時、ここを拠点**として逢坂・瑞穂・宝木・浜村をカバーする交通方法としたい。

●気高町のこれからの町づくりは、「**特色ある教育の町**」づくりをめざしていくのがよいのではないかと考えるようになっていく。

●通学路の整備や駐車場の整備で町内全域から集まりやすくなり、**近くにある公共施設の利用と合わせて活性化し、総合支所を核とした町づくり**も推進しやすくなる。

●ヤサホーパークも活用しやすく、**気高町の豊かな自然を体感しやすい**。

●「放課後児童クラブ」や「子ども食堂」を整備しやすく、**保護者や子どもへの支援の充実が図れる場所**である。

まちづくり・複合化・周辺施設活用③

- 西道路インター周辺が発展していくと活気が出てきて、**学校教育や子どもたちへのよい刺激**となる。
- 放課後、子どもたちが**地域でスポーツ活動、ボランティア活動、文化活動**などをしやすい環境にある。
- 近い将来、小中一貫校となり得ることも考えると、駅や公共施設、また道の駅西いなば気楽里等にもアクセスが便利な駅南が適していると考える。
- 地域の思いを察していただき、市教育委員会でしっかりと方向づけを行っていただきたい。たとえば、「**地域に開かれた学校づくり、未来を託す子どものために優れた教育環境づくり、鳥取市としてモデルとなるような新しい小学校づくりを進める。**」など。
- 20年先の旧気高郡域の児童・生徒数を考慮すれば、また、**道の駅西いなば気楽里をゲートウェイとする西地域のまちづくりの方向性、将来的な義務教育学校への移行**などを視野に入れば、準備委員会が提案している場所が気高町はもとより、西地域、及び鳥取市にとって最適。
- 駅に近いことはもとより、線路を挟むが**気高町総合支所や気高町コミュニティーセンター、社会福祉協議会、ゆうゆう健康館気高などの施設が集合**しており、将来のまちづくりを考えた場合、**より機能の集約を図ることができる。**
- 将来的な拡張（気高郡内学校統合、公共施設統合）にも対応しやすく、また、**駅周辺の活性化も含め、将来的なまちづくりの活性化が望める。**

気高地域学校統合に関する関係者会議の委員意見について

件番	意 見
1	資料に浸水区域に近接しているとあるが、集中豪雨等による排水処理能力を超えた浸水か？ それとも浜村川洪水時のリスクによる浸水か？ またそれは整地及び河川整備で解消されるのではないか？
2	鳥取方式での浜村川洪水浸水リスク図では0.3m未満及び0.3～0.5mが大半を占めているが資料の浸水リスクとはこのことを示しているか？
3	道路整備も含めて行うこととなるが、生徒の徒歩通学の安全性(歩道の広さ・見通しの良さ)が確保しやすいと考えられる。特に学校近くになれば生徒の往来・送迎の車両等が多くなるため車道・歩道に一定の広さが必要になると考える。
4	送迎バス・保護者の車輛による送迎等往来を考えたとき、学校付近は住宅街ではない方が安全だと考える。
5	学校行事等による保護者の集まり・市民の集いの場と考えたとき、駐車場を確保する敷地が工面し易い。(駐車場整備を行う必要がある)
6	どちらの候補地としても浜村地区外の避難場所としては適さない。実際は現在ある各校舎を避難拠点とすることが必要と考える。ただし浜村駅周辺に新設の場合は、浜村地区の避難場所の増になり、分散化が可能となる。(現避難所で浜村地区民が十分に収容可能か?)
7	駅南に新設の場合、支所等防災拠点と近くなり、災害時の連携・確認がとりやすくなると考える。 (災害時通信網の確保は困難な可能性が高いため)
8	災害時引き渡しによる保護者の迎えの場合、住宅の密集していない駅南は危険及び混雑等保護者、住民間のトラブル減につながるかと考える。(道路整備による)
9	会ではプールをB&Gと併用も…と話していたが、どちらの候補地にしても授業のたびに通うこととなるが距離的に現実か？また中学校と合同で使用する形になると思うが、かなりの使用者の数になる。授業カリキュラム、衛生面等は問題ないか？
10	利用頻度の低い施設、不要な施設の複合化・共用は賛同するが、子供たちの勉学に我慢・妥協を要する形になることは容認できない。学習面に関していえば、多角的に慎重な検討が必要と考える。
11	どちらの候補地になったとしても、統合校への登下校手段については早い段階から検討していきたい。説明では4km1時間が徒歩圏内であったが、小学校低学年が毎日の登下校で重いランドセル・荷物をもって歩く距離ではないと考える。文部科学省が出している「適正配置に関する手引き」を見れば、自転車通学も考慮された距離ではないか？また、少子化で登校班も人数が十分に確保できず、現状でも集合場所まで1km近く歩くこともある。登下校方法に工夫も必要となるが、晴天時でも1kmを15～20分程度かけて歩く子供たちの目線で考えてほしい。雨天積雪等悪天候になるとさらに…。スクールバス等様々な工夫をもって登校後学業に集中できる形とし、これが学校統合のモデルの一つとなることを望む。
12	「新設学校」の建設に合わせて、資料12に書いてある、・鳥取市都市計画マスタープラン、・鳥取市新市 域振興ビジョン等に書かれている様に個性を活かしたまちづくりをして頂きたい。
13	旧気高町民体育館が使用中止、中央公民館、社会福祉協議会なども老朽化が進んでいるので、放課後児童クラブ、浜村図書館、気高町の宝である温泉など含めた学校作りの供用化、複合化の検討をして頂きたい。
14	プールについては低学年はゆうゆう健康館、高学年はBGで作らなくていいと思う。
15	踏切が狭い、道路に歩道が無いなど、通学路の整備が必要だと思う。
16	前回の会議でお話があった、鳥取市のモデル的な学校地域と共にある学校作りが実現出来る様に取り組んでいきたいと思う。
17	鳥取西道路が開通し、道の駅西いなば気楽里ができたことなど、駅南側が賑やかになってきそう。それにともない、駅南を中心に気高地域の核となる機能が将来に必要なだと考える。
18	(浜村地区で計画されている) 小さな拠点の取り組みを理想として目指すためには、現在取り組んでいる「小さな拠点」の構図を理想として目指すため、地域住民が集まりやすく、利便性が高い場所であること、大きな広い道路(車2台分がすれ違える位)の確保が必要である事などが大事なポイントになってくる。
19	現在の浜村小学校の位置では、保育園と近いこともあり、道路幅も狭く、不便さを感じることもある。そこで、統合したことで、交通量も増えれば、さらに課題が増えると予想される。
20	20年後の子どもの数は、分かっているので、将来的には、鹿野と青谷とも話し合わないといけなくなることを考えると、間に合わせて浜村小学校をリフォームするよりも、鹿野に近い位の場所に新設し、20年後に対応できる学校づくりを進めるべきだと思う。

21	浜村駅南側は近年、山陰自動車道開通によるIC「きらり」が出来たことによる交通のアクセスが向上し、東西南北にまたがる道路網の中心となっている。又、地域交通の中心のJR浜村駅から約400mの距離であることから、通勤・通学路としても有効である。
22	この地域に小学校(カルチャーゾーン)、コミセン・地区公民館・旧気高町民体育館(コミュニティーゾーン)、商業ゾーン、住宅ゾーンを設けることにより、人の流れの増加、新規転入者の増加が見込まれ、将来、気高町の中心市街地として発展することが見込まれる。このことから、これからの気高町の発展のためにも学校・公共施設を含めて新しい「まちづくり」の拠点としたい。
23	現在試行中の乗合タクシーも将来の交通体系を考える時、ここを拠点として逢坂・瑞穂・宝木・浜村をカバーする交通方法としたい。
24	気高町のこれからの町づくりは、「特色ある教育の町」づくりをめざしていくのがよいのではないかと考えるようになっている。
25	子育て世代が、教育の充実している気高町に住みたい、子どもを統合小学校に通わせたいと思ってくれ、Uターン・Iターンも増えていったら、近未来的に気高町の活性化につながることを期待できる。統合小学校の新設は、「特色ある教育の町づくり」のまたとないチャンスなのである。そして、鳥取市のモデル地域にしたいという鳥取市の構想とも合致するはずである。
26	新設統合小学校は盛土で地上げをして校舎を高くし、周りから見えやすいようにそびえたせてほしいものである。(防災の観点からも重要)
27	浜村駅南は、通学路の整備や駐車場の整備で町内全域から集まりやすくなり、近くにある公共施設の利用と合わせて活性化し、総合支所を核とした町づくりも推進しやすくなる。
28	鷲峰山を望みながら四季折々の自然の変化を感じ取り、のびやかな感性を育むことができる場所である。ヤサホーパークも活用しやすく、気高町の豊かな自然を体感しやすい。
29	スクールバスや送迎車のスムーズな運行のための道路整備や駐車場整備がしやすく、学校から遠い保護者や住民も安心して学校行事等に参加できる。
30	放課後児童クラブや子ども食堂を整備しやすく、保護者や子どもへの支援の充実が図れる場所である。その他、学校施設の共用化・複合化を工夫して、特色ある学校をめざすことができる。
31	温泉や田畑を活用して、地域と連携した体験的な学習活動が実施しやすい場所である。
32	西道路インター周辺が発展していくと活気が出てきて、学校教育や子どもたちへのよい刺激となる。
33	<p>●放課後、子どもたちが地域で活動しやすい環境にある(具体案は下記のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレセンやゆうゆう健康館けたかで水泳、バレーボール、バスケットボールなどのスポーツ活動がしやすい。 ・旧気高町民体育館等にボルダリング、スケートボード、eスポーツ等の練習施設をつくると、さらに特色ある課外活動が出来るのではないかな。 ・老人福祉センターでボランティア活動や文化活動ができるのではないかな。
34	浜村駅周辺はまちづくりの複合化、周辺施設も活用しながら将来性、費用面、安全面、利便性等、あらゆる角度から言っても間違いなく発展し、開発していける場所であると思う。
35	近い将来、小中一貫校となり得ることも考えると、駅や公共施設、又道の駅きらり等にもアクセスが便利な駅南が適している。
36	地域の思いを察していただき、市教育委員会でしっかりと方向づけを行っていただきたい。たとえば、「地域に開かれた学校づくり、未来を託す子どものために優れた教育環境づくり、鳥取市としてモデルとなるような新しい小学校づくりを進める。」など。
37	20年先の旧気高郡域の児童・生徒数を考慮すれば、また、道の駅西いなば気楽里をゲートウェイとする西地域のまちづくりの方向性、将来的な義務教育学校への移行などを視野に入れば、準備委員会が提案している場所が気高町はもとより、西地域、及び鳥取市にとって最適。
38	バス乗り場や学校へのアクセス道も確保しやすと考えられる。
39	駅に近いことはもとより、線路を挟むが気高町総合支所や気高町コミュニティーセンター、社会福祉協議会、ゆうゆう健康館気高などの施設が集合しており、将来のまちづくりを考えた場合、より機能の集約を図ることができる。
40	地域とのかかわりについても多目的なスペースを確保するなど、多種多様に検討できるのは、地理的に見ても駅南の新設場所が最適。
41	将来的な拡張(気高郡内学校統合、公共施設統合)にも対応しやすく、また、駅周辺の活性化も含め、将来的なまちづくりの活性化が望める。
42	新しいニーズに対応した施設の設計や防災、減災の備わった安心安全な学校ができる。

気高地域新設学校整備に係る想定スケジュール

この資料は令和3年11月に開催された第7回気高地域学校統合準備委員会の資料に、「後期気高地域学校統合準備委員会」のスケジュールを追加したものです。

過去の事例を参考にすると後期学校統合準備委員会では、新設校の「教育ビジョン」、「学校教育目標・めざす子ども像」、「校名・校章・校歌」、「通学方法」や、学校を後押しするための組織として「PTA組織」のことなども決めていくこととなります。その他にも、地域住民・保護者等への広報誌等による情報提供や閉校に向けた事業などの企画も行うこととなります。

また、後期学校統合準備委員会は、地域、学校、保育園、保護者等の代表で構成され、委員会の中にテーマごとに分けた部会を設立し議論を行います。なお、これまでの例から検討期間は2年程度と想定しています。

〈新規用地を取得し統合する場合〉

年度	項目	備考
令和〇年度	地元との調整	・施設の複合化 ・まちづくりの将来像
令和〇+1年度	土地購入等	
令和〇+2年度	農地転用・農振除外、 土地造成	
令和〇+3年度	基本設計	
令和〇+4年度	実施設計、校舎建設工事	
令和〇+5年度	実施設計、校舎建設工事	
令和〇+6年度	実施設計、校舎建設工事	令和〇+6年度内完成
令和〇+7年度	開校	

後期学校統合準備委員会
(2年程度)

※土地の状況により、工事に入るまでの期間が延びることがあります。